

2021年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

氏名	雷音学術出版（茂木謙之介・大嶋えり子・小泉勇人）	助成金額	50万円
研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）			
2020年度以降の高等教育における —オンライン授業の記録・アーカイブ化とその活用—			
助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）			
<p>【目的と意義】</p> <p>本活動の目的は、COVID-19の流行状況の中で全国的に展開した高等教育におけるオンライン授業について、教員による授業実践報告を集積し、記録・アーカイブ化することによって、高等教育研究に資する史資料体を形成することにある。</p> <p>2020年1月に新型コロナウイルスの国内感染者がはじめて確認されてから、大学をはじめとする高等教育機関はその対応を余儀なくされた。なかでもその代名詞となったのはオンライン授業である。2020年6月1日時点で約90%の高等教育機関がオンライン授業を取り入れるという状況下で、ほとんどの教員たちはオンライン授業の実践経験を持たないにもかかわらず、限られた時間のなかでの対応を求められるという未曾有の出来事が発生した。特に個別の対応が各教育機関に委ねられるという状況下において、また授業内容や教員各自の能力に依存する状況であったため、名は同じオンライン授業であっても多種多様な形態が生起することとなった。本活動では、その状況への対応として、多くの教員の実践報告を集めることにより、2021年度以降のオンライン授業の参考としてもらえるような史資料体を構築するとともに、将来的にコロナ禍のさなかでどのような授業が高等教育で実践されたのかという史料としても有意義なものとなることを目指したい。</p> <p>本活動では、高等教育機関でオンライン授業を実施した教員を対象にその授業実践報告を同一テンプレートで執筆することを依頼し、それを記録・アーカイブ化する。異なる領域の科目における実践を報告するうえで、一律に同一のテンプレートを使用することには異論もあるかもしれないが、敢えて全員に同一の枠組みを課すことによって読者が各事例を比較検討できるようにする。</p> <p>【実績】</p> <p>当初の目的の通り、コロナ禍における高等教育のオンライン授業実践報告の史資料体である『コロナとアカデミア』を刊行した。収録内容として、遠隔授業実践報告に加え、遠隔授業に関する論考（査読あり）、オンラインで行われた学術イベントの運営報告、学生により執筆されたコラムを含んでいる。なお、複数のオンライン・イベントにおいて、共同代表らが発表し、遠隔授業に関する知見の共有にも努めた。</p>			
助成金の使用金額及び使途			
査読謝金 60000円 原稿料 10000円 校正謝金 5000円 編集費 150000円 ISBN取得費 22000円 英文校正 15245円 会議費（会議室代等） 25000円 交通費 44940円 製本費 160000円 振込手数料 1190円 合計 493375円			
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合はURLを記載すること。）			
Yuto Koizumi, Kennosuke Motegi, Eriko Oshima, "The Records of Remote Education in the Humanities: Teachers' Efforts During 2020 in Japan", <i>Asia Centre 6th International Conference: Conference Proceedings</i> , 2021. (https://asiacentre.org/wp-content/uploads/Conference-Proceedings-COVID-19-in-Asia-Communication-Nationalism-and-Technology.pdf) 茂木謙之介、大嶋えり子、小泉勇人編著『コロナとアカデミア』雷音学術出版、2022年。 (https://sites.google.com/view/lionpress/%E5%88%8A%E8%A1%8C%E6%9B%B8%E7%B1%8D にて全文無料公開) Yuto Koizumi, Kennosuke Motegi, Eriko Oshima, "The Records of Remote Education in Humanities: Teachers' Efforts During 2020–2021 in Japan", <i>Asia Centre 6th International Conference COVID-19 in Asia: Communication, Nationalism and Technology</i> , September 9 th , 2021. 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院主催シンポジウム「遠隔で育む文章教育 —オンライン文章チュータリングの現状—」2022年2月17日（雷音学術出版の共同代表3名がそれぞれ発表）。			